

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

変わらなぬ

神山小 六年 寺本 ひな乃

桜が咲く三月ごろ。姉達とおいっ子と私を

あれせて六人で観光めぐりをした。その中で

一番心に残っているのが千尋の滝だ。

ブーン。車の走る音がする。今から千尋の

滝に行くところだ。家から千尋の滝まで数分

かかる。観光に行く前からおいっ子ははしや

いでいる。キツ。おっ、ついた。姉達は、口

々に、

「わあ、変わらなぬ」

とか、

「桜が満開だ」

など言っている。私も「いつ来ても変わらな

いな」と思った。

それから、千尋の滝をみに行った。最近雨

が少なかつたから、滝の水の量が少なくて物

足りないようだった。このあと、皆で自どり

をした。カシヤ。画面をみてみて、ブレてい

るところもあるけど、とってても良い写真だっ

No.

20×20

(不許複製)

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終わったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

た。
 千尋の滝から「夢のかね」という桜が咲い
 てるところに行った。ここも千尋の滝の中だ。
 おいっ子をたっこしながら、かねをならした
 から、ちよっつとやりにくかった。けど、かね
 の近くの桜は満開できれいだった。
 リーニゴリーニ。私が二回目のかねをならし
 た。ならしながら、みる風景は絶景だった。
 杉の白骨樹もあった。姉達はそれをみて、
 「屋久島はやーぱり良いな」。
 と言っていた。私は「私もこう思う時がくる
 のかな」と、心の中で思った。
 今から、展望台に行く。つる。雨はそんな
 ふっつもないのに足にすべる感かくがした。
 タッタッタタタ。
 「危ないから、走らないようにしてよ」。
 姉達から声がかかると。私は、
 「はい」。
 と返事しつつ走っていた。
 もう。

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

No. _____

姉のおこっつてる声が聞こえる。ちよつと悪いことしちゃったかな。あとで、あやまろうかな。悪いことしたもんね。

そんなことを考えている内に展望台に早くをついた。木をバツサリ切ったから町も千尋の滝までもみえる。きれいっちゃん、きれいだけど、少し木遣がさみしそうな気がした。

「ごめん」。

「さっおのは、ひな乃が悪かったよね。」

「いいよ、いいよ。それだけ元気がいいってことですよ」。

と姉が言っつて、私はホツとした。

へへへ。最高の観光めぐりになったな。ちよつとトラブったけど、楽しくてあたたかい。また、兄弟の輪が深まったような気がする。

(不許複製)

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

